

第11回 地域科学技術振興研究会

持続可能な和紙文化の振興に向けたシンポジウム in 京都

「和紙を知り・和紙と生きる」

— 和紙文化の発展に向けて和紙事業の三方よしを考える —

本シンポジウムでは、和紙文化の展開に向けて“和紙とは何か”— 和紙や和紙を取り巻く文化の魅力を知るとともに、和紙づくりの課題について考えていきます。Session1[講演]では、近現代の和紙の変遷と東大寺など寺院における和紙の利用の歴史や紙を素材にした文化財(典籍、古文書)について学び、手漉き和紙職人の方に和紙づくりとその魅力、伝統技術の継承への課題についてお話頂きます。Session2[演習]では、水墨画(経験不問)を通じて実際に和紙に触れて頂きます。また大河ドラマ「光る君へ」で使用されている平安時代からの「紙巻筆」について筆師 藤野雲平氏よりご紹介頂きます。学生の方、和紙文化にご興味のある方のご参加をお待ちしております。

2024年 5月25日(土)13:00～17:00

session1 講演 13:00-15:00 session2 演習 15:00-17:00

稲盛記念会館 (教養教育共同化施設)

Session1 講演 Session2 演習

201講義室・2階 会議室

〒606-0823 京都府京都市左京区下鴨半木町1-5

アクセス <https://kyoto3univ.jp/p170>  
地下鉄烏丸線「北山」下車 1番出口から南へ徒歩5分他

参加費 無料  
参加対象 学生・和紙や和紙を取り巻く文化についてご関心のある方  
定員 講演 50名  
演習 20名「水墨画による紙選び」  
※定員になり次第、締切りとさせていただきます。

お申込方法  
公募サイト  
<https://www.jarec.or.jp/kyoto-washi/symposium.html>

Session1 講演／講師 (敬称略)

大林賢太郎 京都芸術大学 教授  
歴史遺産学科

横内 裕人 京都府立大学 教授  
文学部歴史学科・史学専攻

林 伸次 黒谷和紙協同組合 理事長  
手漉き和紙職人・京都伝統工芸大学校特任教授

Session2 演習／講師 (敬称略)

筆師 十五世  
藤野 雲平 攀桂堂 当主  
正倉院宝物特別調査・調査員

平野 正夫 元淡海水墨研究会主宰  
元京都府特別技術指導員



お問合せ  
公益財団法人全日本科学技術協会  
TEL 03-3831-5911 担当 鈴木

主催 公益財団法人全日本科学技術協会  
共催 京都府立大学

【講演】 Session 1 (13:00 - 15:00)

講師1

「明治期における和紙の展開とその後」

—消えていった新しい和紙—

大林賢太郎 氏 京都芸術大学 教授

歴史遺産学科



<https://www.kyoto-art.ac.jp/info/teacher/detail/04187>

講師2

「寺院と和紙文化—東大寺を支えた和紙の歴史」

横内 裕人 氏 京都府立大学 教授

文学部歴史学科・史学専攻



[https://www.kpu.ac.jp/education/teacher/r6\\_literature/](https://www.kpu.ac.jp/education/teacher/r6_literature/)

講師3

「黒谷和紙の魅力と和紙を取り巻く課題」

林 伸次 氏 黒谷和紙協同組合 理事長

手漉き和紙職人・京都伝統工芸大学校特任教授



[https://www.task.ac.jp/course/japanese\\_paper\\_craft/](https://www.task.ac.jp/course/japanese_paper_craft/)

【演習】 Session 2 (15:00 - 17:00)

講師4

「筆と和紙—正倉院宝物特別調査に見る

紙巻 筆と雲平筆の魅力」

大河ドラマ「光る君へ」で使用されている「紙巻筆」。平安時代の筆は芯となる毛を和紙で巻き固め、その上に上毛をかける製法でつくられていました。当時の筆はどのようなものであったのか、正倉院宝物特別調査に調査員として参加された 筆師 十五世 藤野雲平氏に「正倉院筆」の構造等を試作筆を用いてご紹介頂きます。また、400年にわたり伝統技術が継承され現代に生きる「雲平筆」の魅力について語って頂きます。

藤野 雲平 氏 攀桂堂 当主

正倉院宝物特別調査・調査員



<http://umpei-fude.jp/about-us.php>

講師5

「水墨画による紙選び」

シンポジウムの最後は、水墨画による紙選びの演習を行います。「筋目描き」で知られる伊藤若冲の水墨画は、墨粒子が濃から淡の順に紙へ浸透・展開するため筋目が出てくるのがわかりました。演習では、水墨画研究家の平野垂風（正夫）氏に用材・描き順・描き方から墨の滲みや色見えについて学び、和紙の特性を見極めていきます。

平野 垂風（正夫）氏 元淡海水墨研究会主宰

元京都府特別技術指導員



京都府立大学下鴨キャンパス



- JR京都駅 阪急烏丸駅から  
地下鉄烏丸線「北山」下車 1番出口から南へ徒歩5分
- 京都山科駅から  
市バス 11「府立大学前」下車 徒歩5分
- JR二条駅から  
市バス 20「府立大学前」下車 徒歩5分



会場マップ 稲盛記念会館 <https://kyoto3univ.jp/p170>